

<若者を失望させない政治へ>号より

1. 若者を失望させない政治へ【政治家の本分】

- 1) 国会議員の本分は、法律をつくること
- 2) 立法には見識・調整力・説明力が必要だ
- 3) 若者を失望させない政治へ

1. 若者を失望させない政治へ【政治家の本分】

1) 国会議員の本分は、法律をつくること

小泉純一郎は「改革の本丸は郵政民営化だ」と叫んだが、それは違う。改革の本丸は、政治家が本来の仕事をするにある。

政治家の職場である国会を立法院と言う。法律を作る場の意味だ。アメリカやイギリスでは、人名を冠した法律がよく新聞に載るが、かの国では政治家が法律を作っているためだ。

しかしわが国ではほとんどの法律、しかも大事な法律ほど官僚が下地を作った閣法である。

「この制度は大事なものだから政府提案で法案化する」など、立法院の与党幹部のコメントが良く報じられている。

しかし、政府とは行政府を言うのであって、行政府の本来の職分は立法院で作られた法律を忠実に執行することである。この行政府に法案の作成まで託せば、行政府の権限は巨大化する。また作られた法案も行政府の執行しやすい内容となる。肝心な点が省令や政令事項になっていたり、または役所に直接聞かなければならない項目が多くなるのである。悪名高き行政指導である。

そればかりか、公益法人設立やそこに多額の予算や業界からの資金が集るような仕組みを法律の中に埋め込み、天下り場所とするようなことが日常的に起こってきたのである。この弊害は、政治家が本来の仕事が官僚に丸投げしているためである。その結果、政治家の仕事は、地元からの陳情を処理したり（行政府につなぐこと）、特定業界の利益誘導をしたりに成りがちとなる。

2) 立法には見識・調整力・説明力が必要だ

立法作業とは、何が問題で、どのようにすれば解決の筋道を立てられるのか、その際の利害関係者をどう調整するのか、更に議会では審議に立ち向かわなければなりません。この過程を経なければ法案は成立とはなりません。

現実を見る眼、将来を予測する識見、関係者を説得する術、これこそ政治なのです。しかしこの過程を官僚に丸投げしますから、優れた政治家が育たないのは当然です。さらに個人が法案に対して論戦をしようにも、党議拘束がかかることから、それさえ意味の無いものとなる。

つまりは、政治家の力量を測るすべがなくなり、誰でも良いこととなる。

（若者が誰がやっても同じとため息をつくのは、ある意味当たっている。）

3) 若者を失望させない政治へ

むしろ政治家としての素養を兼ね備えた官僚が育ってしまったのです。つまり官僚組織の肥大化の原因は政治家側にあったのです。これでは優れた政治家を輩出させることは困難です。本分を官僚に委ねてきたため、政治家はその力量で選ばれることなく、家柄が良いとか風貌が良いとか、親父さんに世話になったとか、そんな基準で選ばれるようにしてしまったのです。

まずは政治交代の実現。

次に、政と官の役割を再定義。同時に与党と政府（内閣）の一元化。

そして、政治への新規参入を容易にすること。政治主導への行程は複雑で時間もかかるが、若者が、成人した証である投票権に嬉しさや誇りに感じられるような国にしなければならない。更には、もっと多くの若者が、政治家を目指す時代を切望している。（了）